

ウトナイ湖通信



No.257

2025年10月号



北からガン類、ハクチョウ類、カモ類などの水鳥が、渡りの途中にウトナイ湖に飛来しています。羽を休め、さらに南下していきます。秋の渡り鳥との一期一会の出会いをお楽しみください。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

10月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

10月12日(日)10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10名程度
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



作って楽しい！ウトナイ湖の生きもの工作

10月25日(土)11:00~14:00

- 定員:先着30名
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



アイロンピース
ほんほん ほん

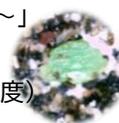
ウトナイ湖・秋の渡り鳥 DAY

10月13日(月・祝)

10:00~12:00

①講演会「ウトナイ湖のごみ、どこへ行く～マイクロプラスチックを見てみよう～」

- 定員:40名程度(当日受付10名程度)
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)



ほかご家族で楽しめる体験コーナーを館内開催予定！

13:30~15:30

②体験会「eBird 体験講座～世界最大データベースを使った渡り鳥ウォッチング」

- 定員:先着20名
- 対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴)
- 参加にはアプリeBirdの事前登録が必要です。



登録の詳細はこちら
→→→→→



※①②の申込:10/12(日)までに電話で当センターへ

市民ギャラリー

環境省アクティブ・レンジャー写真展 「北の自然の舞台裏」2025-2026

会期:10月16日(木)~11月9日(日) 展示:環境省



『3施設合同スタンプラリー』開催

10/1(水)~11/3(月・祝)

スタンプを集めて景品をGET! 詳細は当センターSNSをご覧ください。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター **検索**

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムーくん



~ ウトナイ湖 ~

- ・国指定鳥獣保護区特別保護地区
- ・ラムサール条約湿地
- ・東アジア・オーストラリア地域
フライングウェイ・パートナーシップ



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。

チゴハヤブサ

術後1週間のレントゲン写真



術後2週間のチゴハヤブサ



体重180g前後を維持し、容体は安定

8月26日



経過観察中

原因：衝突疑い

翼を負傷したところを保護され、当センターへ搬入される。

レントゲン検査で、右翼の橈骨および尺骨の骨折を確認。市内の獣医科医院にて、尺骨の骨内にピンを挿入する手術が行われた。

個体の容体は安定しており、自発採餌も認め、現在経過観察中

チゴハヤブサ（ハヤブサ目 ハヤブサ科）

全長はオス34cm、メス37cm。北海道では夏鳥として渡来。平地の農耕地、都市近郊の住宅地などで生息します。自分では巣を作らず、カラスの古巣などを利用して繁殖します。小鳥やコウモリ、トンボやセミのような昆虫を捕食します。

トピックス



本年度最後の「救護室バックヤードツアー」

8月23日、本年度3回目、最後となるツアーを開催しました。15名の方に、非公開の治療室やリハビリケージなどを案内し、収容されている野鳥の保護経緯などを説明しました。参加者は熱心に耳を傾け、「身近な場所で野鳥がケガをしており驚いた」などの感想が寄せられました。



毎月第2日曜日は「お気軽ガイドウォーク」

9月のお気軽ガイドウォークでは、道内外から12名の方にご参加いただきました。当センターのレンジャー、ボランティアと歩く40分ほどのミニツアーで、10羽ほどのヒシクイの群れや、アキノウナギツカミなど秋の湿地の生きものを観察しました。次回は10月12日に開催です。



ボランティアコーナー

当センターの館内案内をしてくださっているベテランボランティアの おくやま さんにインタビューしました。

館内案内活動をやってみようと思った理由はなんですか？

日頃、センターでのイベント以外は展示ホールは無人で、来館者はパネルや剥製等の展示物を眺めて行くだけなので、よりウトナイ湖の自然を理解して貰うためには案内や解説する人が必要だなと感じ、自分が出る範囲でお手伝いできれば思いました。

館内案内で心がけていることなどを教えてください。

まず来館者の様子を良く確認します。人によっては話かけてほしくない方や、自然に興味はなかつただ立ち寄りだけの方もいるので、感心をもって頂くのはもちろん、解説も人によってはくどくなり過ぎない様に気を使って話をするようにしています。

印象に残ったことがあれば教えてください。

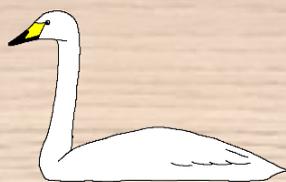
センターで行なっている「こころの授業」を受講したお子さんが、家族連れで来館してくださり、あまり関心の無かった親御さんが案内後には「イベントへもぜひ参加したい」と言って頂けたこと。また、以前双眼鏡の使い方を案内した方が再度来館し、「今は楽しく鳥見をしています」と声をかけて頂いたことです。



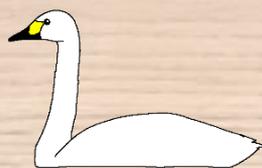
来館者に展示物の案内をする
おくやま さん

ウトナイ湖 ◀ お楽しみコーナー 【ウトナイ湖・クイズ】

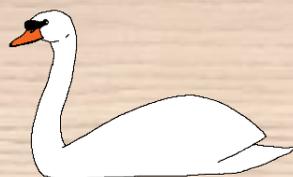
ウトナイ湖には、ハクチョウの仲間が3種類います。
さて、ハクチョウのペアの特徴は？



オオハクチョウ



コハクチョウ



コブハクチョウ

A. 一夫多妻

B. 一妻多夫

C. 一夫一妻

※答えは最後のページにあります。

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook

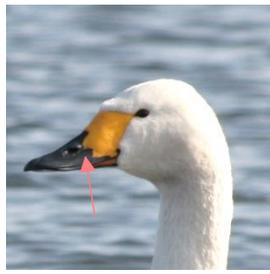
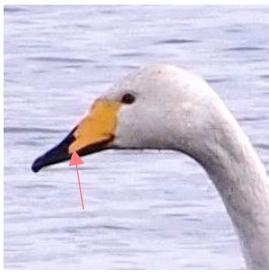


X



レンジャーのおすすめ自然情報

例年、10月上旬から中旬頃にハクチョウ類がウトナイ湖にやってきます。オオハクチョウとコハクチョウの2種類があり、嘴の様子が識別のポイントです。観察路では、秋の花が開花し、実が熟し始め、徐々に秋が深まっていきます。最低気温が一桁になることもあるため、散策の際は体温調整のしやすい服装がおすすめです。



【オオハクチョウ】
全長140cm。くちばしの黄色い部分が広く、先端が黒い部分に食い込む。ウトナイ湖で越冬する個体もいる。

【コハクチョウ】
全長120cm。くちばしの黄色い部分が狭く、先端は黒い部分に食い込まない。ウトナイ湖より南の越冬地に渡る。



【エゾリンドウ】
9～10月頃に約5cmの花を咲かせる湿原の植物。ウトナイ湖の秋を代表する花のひとつ。木道脇で見られる。

【チョウセンゴミシの実】
つる性の樹木で、実はブドウの房のようになる。ゴミシは漢字で五味子と書く。野鳥が実を食べて種子が散布される。

ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【秋】

